

ジ・オープン開催コースを対象とする POGO（ポゴ）の技術利用による客観的なデータ収集

R&A 公式プレスリリース：2019 年

ファームネス（土壌硬度）、土壌水分、グリーンスピード、有機物、土壌の化学的状態を含むグリーン性能の客観的なデータは、そのチャンピオンシップコースをサポートするために R&A のアグロノミーサービス（土壌・生物・微生物・植物の現状調査）の一環としてジ・オープンの開催コース全てにおいて収集されます。収集されたデータは意思決定に情報を与え、日常的な作業だけでなくチャンピオンシップの準備及び開催期間中においても持続可能なメンテナンス管理に対し科学的根拠を提供します。これまで、客観的な測定は 10 年以上にわたって行われており、現在、各コースの相対的なパフォーマンスに関する重要な歴史的情報が蓄積されております。

今後は、POGO システム（ポゴシステム）によって各コースでデータが集積され、集積されたデータは R&A のアグロノミストの定期的な訪問における業務の重要な部分であるだけでなく、ジ・オープン開催にあたっての最終調整及び開催中の重要な基礎データとして利用されます。この測定値を基礎とする“情報に基づく意思決定メソッド”は、チャンピオンシップ開催コースの設定方法を積極的に変え、グリーンの管理においてどの部分へ焦点を当てるべきか最適な判断を下すという点において、その手法を大きく改善します。

2020 年のチャンピオンシップ中に POGO システムを使用し、各コースのデータ収集プロセスを強化するため、ジ・オープンの開催 10 コースはすべて POGO システムとクレググインパクトハンマーを調達し、他の主要な管理変数と共に土壌の硬さと土壌の水分の両方を定期的に測定できるようにしました。この情報は、アップロードされ保存され、R&A によって提供される POGO クラウドシステム上で照合されます。

POGO クラウドシステムは、各コースが日々の意思決定とターゲットを知らせるために、独自のデータを表示し分析します。その対象は特定のグリーンでありまたメンテナンスの必要な場所です。さらに、R&A のアグロノミーチームは、各会場からの結果をリモートで分析し、その後のアグロノミーサービスでの訪問時に長期的なアグロノミックな意思決定を知らせるために情報を解釈し、各コースのより確かな年次分析とより確かな歴史的傾向の分析を可能にします。

リチャード ウィンドウズ

シニア アグロノミスト、R&A セントアンドリュース スコットランド